



印度ノ「センサス」ト臺灣ノ臨時戸口調査

高野, 岩三郎

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 2(4):403-424

(Issue Date)

1907-04

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051126>



經濟學
商業學

國民經濟雜誌

第貳卷

第四號

(明治四十年
四月一日發行)

論

說

印度ノ「センサス」ト臺灣ノ臨時戶口調査

東京帝國大學法科大學教授

法學博士 高野岩三郎

本邦曩ニ明治三十五年十二月一日ヲ以テ、國勢調査ニ關スル法律ヲ公布シ、明治三十八年ニ第一回ノ調査ヲ施行スルノ規定ナリシモ、日露戰役ノ發生ハ此規定ノ實行ヲ許サス、爲メニ法律ノ規定ハ改正セラレ、調査ノ實施ハ不定期ニ延期セラレタリ。吾人ハ則チ果シテ明治何年ニ於テ我全國ニ互レル調査ノ行ハルヘキヤヲ知ラス。然ルニ獨リ我領土タル臺灣ニ於テハ明治三十八年十月一日ヲ以テ所謂臨時戶口調査ヲ舉行セリ。但シ所謂國勢調査ノ調査ノ範圍カ何ノ邊ニマテ及フヘキヤ

ハ今日猶ホ未決ノ問題ナリト雖、少ナクトモ普通ニ所謂人口調査センサス、臺灣ニ所謂戶口調査ヲ包含スヘキハ明カナリ。

英吉利ニ於テハ、第十九世紀ノ劈頭千八百〇一年以來、十年毎ニ繰返シテ人口調査ヲ舉行ス。而シテ其屬領地タル印度ニ於テモ、千八百八十一年以來之ヲ施行シ、即チ同年第一回ニ行ヒ、千八百九十一年ニ第二回、千九百〇一年ニ第三回ノ調査ヲ行ヘリ。

臺灣モ印度モ共ニ一ノ屬領地ニシテ、本國人民ト風俗習慣ヲ異ニスル多數ノ異人種ヲ包含スルノ點ニ於テ相似タリ。此上ニ行ヘル人口調査ハ本國ニ行フ所ノ調査ト、多少趣ヲ異ニスヘキハ寧ロ當然ナリ而シテ如此キ特色ヲ有スル兩調査ヲ互ニ相比較スルハ亦多少ノ興味ナクンハアラス乃チ以下聊カコレカ叙述ヲ試ミント欲ス

第一 印度ノ人口調査

印度ニ於ル最近ノ調査ハ千九百〇一年ニアリ。然レトモ余ハ今此調査ノ報告書ヲ利用スルヲ得サルカ故ニ、前回即チ千八百九十一年ノ調査ノ報告書ニ據リテ、其

組織ノ概要ヲ説ン。但シ最近ノ調査モ之ト大體異ナル所ナキハ、之ヲ本國英吉利ニ於ル調査ニ照シテ疑ナキ事ニ屬ス。

(一) 調査ノ目的物

人口調査ノ目的物タル人口ハ、本籍人口(又ハ法律上ノ人口即チ調査地ニ本籍ヲ有スル人口)ニモアラス、又常住人口(即チ調査地ニ一定ノ住所ヲ有スル人口)ニモアラス、實ニ現在人口(又ハ實際ノ人口即チ本籍又ハ住所ノ有無ニ拘ハラズ調査ノ場所ニ調査ノ時ニ現在スル人口)ニアルコト、方今諸國ニ普通ニ行ハル、所ニシテ、又理論上ニ於テモ最モ宜シトスル所ナリ。印度ノ人口調査モ亦其本國ニ於ルカ如ク、同シク現在人口ヲ調査セリ。即チ一定ノ調査時期ニ現在セルモノヲ、現在セル場所ニ於テ悉ク調へ上ルノ方法ヲ採レルナリ。

(二) 調査ノ時期

調査ノ時期ハ二月二十六日ノ夜ト定メラレタリ。本國英吉利ニ在テハ四月六日ヲ選ヒタルニ印度ニ於テハ之ト異レル期日ヲ採用シタルハ、四月上旬ニハ印度ハ既ニ暑季ニ入ルカ故ニ、若シ此時期ニ調査ヲ行フトキハ調査員ノ準備の行動其他

一般ニ調査ノ準備ヲ行フニ便ナラス。因テ故ラニ之ヲ避ケ、其以前ニ於テ二月下旬ヲ選定シタルナリ。然シテ又千八百八十一年ノ第一回調査ハ二月十七日ニ舉行シタルニ、第二回ノ調査ハ之ト同日ナラス、少シク遅レテ二十六日ト定メタルハ、畢竟兩期ニ於テ滿月ノ時日ノ異ナルニ因レリ。蓋シ後ニ述ルカ如ク印度ノ調査ニ於テハ調査員ノ勞多クシテ、調査員自ラ調査當日各家ヲ巡回シ、尋問ヲ試ミ、其答申ヲ調査用紙ニ記入スルノ方法ナレハ、調査員ノ奔走ニ便ニシ、又調査ノ正確ヲ計リ、兼テ燈火ノ費用ヲ節スルカタメニハ、月明ノ夜ヲ選フコト甚タ必要ナリ。但シ滿月ノ日ハ亦之ヲ採ルコト能ハス。何トナレハ當夜ハ印度ニテ總テ重ナル宗教的集會ノ催ホサル、日ニシテ、人民ノ大部分ハ其家ヲ離レ寺院殿堂等ノ所在地ニ向テ旅行スルノ時ナレハナリ。然レトモ此神聖日ヲ終レハ人民ハ通常直チニ其家郷ニ還ルノ習ヒナルカ故ニ、滿月ノ日以後第三日ヲ以テ調査ノ時日ト定メタルナリ。而シテ滿月ノ日ハ固リ千八百八十一年ト千八百九十一年トニ於テ同一ナラス、從テ調査ノ期日ハ同シク二月ノ中ニアレトモ、前ニハ十七日ヲ選ヒ、後ニハ二十六日ト定メタルナリ。調査期日ノ選定カ凡テ人口調査上甚タ肝要ノ事項ニシテ、然モ各國各地ノ

狀況習慣ニ應シテ深キ注意ヲ加フルノ要アルコト、印度ノ實例ニ於テ誠ニ好箇ノ例證ヲ見ルナリ。

(三) 調査事項

調査事項ノ重ナルモノヲ列舉スレハ下ノ如シ

第一、男女ノ性

第二、年齡

第三、配偶の狀態即チ孤獨、結婚又ハ鰥寡

第四、職業

第五、出生地

第六、精神又ハ身體ノ缺損即チ瘋癲、聾啞、盲目、癩疾

第七、宗教

第八、常用語

第九、種族 (Cast, tribe or race)

第十、教育ノ程度即チ修業中、讀書力アル者、全ク讀書力ナキモノ、三ニ別テ調

查ス

以上ノ中第七乃至第十ハ本國ノ調査ニハ之ヲ缺ク。蓋シ印度ノ特殊ノ狀態カ是等ノ事項ニ付テモ亦調査ヲ遂ルノ必要ヲ認メ、特ニ此處ニ之ヲ加ヘタルモノナリトス。

(四) 調査ノ機關及ヒ方法

人口調査ノ執行ノタメ印度政府ハ中央ニ特ニ一名ノ官吏 (Census Commissioner) ヲ置キ、之ヲシテ全調査ノ統轄ニ當ラシメ、而シテ各洲ニ於テ更ニ特別ノ人口調査事務官 Superintendent ヲ任命シ、其下ニ於テ普通ノ下級地方廳ヲシテ調査ノ實施ニ任セシメタリ。是等ノ地方官廳ハ其地域ノ廣狹ニ應シ適宜相當ノ調査員ヲ使用セリ。調査員ノ數ハ全國ニ於テ百萬人ニ近ク、而シテ調査員一人ニ付キ平均三百人ノ人口ヲ擔當シテ調査セリト云フ。

調査ノ樣式ハ所謂所帶票 Household schedule ヲ用キタリ。卽チ一人毎ニ一枚ノ用紙ヲ充ツルモノニアラスシテ、一所帶毎ニ一枚ノ用紙ヲ充ルモノナリ而シテ。歐洲諸國ニテハ普通ニ所帶主ヲシテ自ラ所帶票ニ記入セシムルカ故ニ、調査員ノ任務ハ

主トシテ調査ノ前後ニ於テ所帶票ノ配付及其回收ニアルモノナレトモ、印度ノ如ク人口百人中讀書力ヲ有スルモノハ僅カニ凡ソ六人ニ過サルノ狀況ナル處ニ在テハ到底此方法ニ依ルヲ得ス、勢ヒ調査員ヲシテ所帶票ノ記入ニ當ラシメサルヘカラス。然モ又カクシテ一夜ノ中ニ二億萬以上ノ人民ニ就テ悉ク之ヲ調査シ終ルハ非常ノ困難事タリ。是ニ於テ調査ヲ分テ二回トナシ、第一回ハ調査期日前ニ於テ之ヲ行ヒ、即チ調査員ハ其擔當區域内ニ於ル住民ニ就キ尋問ヲ試ミ、其結果ヲ所帶票ニ書キ上ケ置クコト、セリ。然ル後調査期日ノ當夜ニ於テ第二回ノ巡回ヲナシ、豫備調査ニ訂正増減ヲ施コシ、即チ死亡者竝ニ不在者等ノ家ニ在ラサルモノハ之ヲ省キ、出生者及來訪者等ノ家ニ入リタルモノハ之ヲ加フルコト、ナシタリ、如此キ手續ヲ採用シタリシカハ當夜僅カニ四時間ヲ以テ全國ノ調査ヲ終リタリト云フ。

第二 臺灣ノ臨時戶口調査

前ニ述タルカ如ク我本土ニ於テハ施行ヲ延期シタルニモ拘ラス、獨リ臺灣ニ於テハ一昨明治三十八年十月一日臨時戶口調査ノ名ヲ以テ人口調査ヲ行ヘリ。コレ

實ニ明治十二年杉亨二氏カ甲斐國ニ行ヘル一部分ノ人口調査ヲ除キテハ、我邦ニ於ル近世的人口調査ノ嚆矢ナリ。

我本土ニ於テ所謂國勢調査ノ施行ヲ延期シタルハ、事決シテ不可ナラス。蓋シ日露戰爭ハ明治三十八年九月ヲ以テ終局ヲ告ケタリト雖、元來人口調査ノ目的ハ全國人口ノ常態ヲ知ルニアリ。然カモ戰時及戰後ニ在テハ其常態ヲ失スルコト甚シキカ故ニ、明治三十七年ニ於テ政府俄カニ實施ノ延期ヲ決シ、遂ニ法律ヲ改正スルニ至リタレハナリ。況ヤ國家財政ノ窮乏ハ益々之ヲ便トスルノ事情アリタルニ於テオヤ。但シ新タニ明治三十八年ニ代ユヘキ實施期ヲ定メスシテ、全ク之ヲ政府ノ考量ニ任スルコト、ナシタルハ、余ノ贊成ヲ表シ難キ所ナリ。

然ルニ臺灣ハ本土ト趣ヲ異ニスル所アリ。其住民ノ殆ト全部ハ本ト清國人タリ、而シテ日露ノ戰局ハ常ニ我國ニ不利ナラサリシカハ臺灣ノ民心動搖ヲ來サス、人口概シテ常態ヲ失ハス、コレ本土ニ於テ延期ノ止ムナキニ至レル調査カ、依然臺灣ニ行ハレタル所以ニシテ、余ハ此有利ノ地位ヲ利用シテ戶口調査ヲ敢行シタル臺灣當局者ノ銳斷ヲ贊ス。

抑モ明治三十八年六月臺灣總督府ハ臨時戸口調査ニ關スル根本ノ規定ヲ公布セリ。名ケテ「臨時臺灣戸口調査規則」ト云ヒ條文僅カニ六條ヨリ成ル。全文ヲ掲クレハ下ノ如シ。

臨時臺灣戸口調査規則

第一條 明治三十八年十月一日臨時戸口調査ヲ施行ス但シ同日内ニ完了シ難キトキハ同月三日迄ニ施行スヘシ

天災事變其他避クヘカラサル事由ニ因リ前項ノ期間ニ施行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ノ止ミタル後直ニ之ヲ施行スヘシ

第二條 臨時戸口調査ハ明治三十八年十月一日午前零時ニ於ケル現在者ニ就キ左ノ事項ヲ調査スルモノトス但シ蕃地ニ在ル蕃人ハ之ヲ調査セス

一、氏名 二、所帶主トノ續柄又ハ所帶主若ハ所帶トノ關係 三、種族 四、男女ノ別 五、出生ノ年月日 六、緣事上ノ身分 七、本業名 八、本業ノ地位 九、副業名 十、副業ノ地位 十一、常用語 十二、常用以外ノ語 十三、讀ミ書キノ程度 十四、不具ノ種類(聾啞、盲、白痴及瘋癲ニ限ル) 十五、不具ノ原因 十六、阿片煙吸食者 十七、纏足者 十八、出生地(内地人ニ限ル) 十九、原籍(内地人ニ限ル) 二十、國籍(外國人ニ限ル) 二十一、渡臺ノ年(内地人ニ限ル) 二十二、常住地(一時現在者ニ限ル)

前項ノ現在者ニアラサルモ常住者ト認ムヘキ者ニ付テハ氏名及男女ノ別ヲ調査シ其ノ所帶主

ニ付テ、仍職業名及其ノ地位ヲ調査ス所帶主ニ限り現在者ナルト現在者ニアラサル常住者ナルトヲ問ハス任家ノ有様ヲ調査ス

第三條 保正、甲長、街庄社長及其ノ書記ハ臨時戸口調査ニ際シ當該職員ノ指揮ヲ承ケ其ノ事務ヲ補助スヘシ

第四條 廳長ハ臨時戸口調査ニ際シ祭典其ノ他衆庶ノ移動ヲ來タスヘキ行爲ニシテ調査ヲ阻害スルノ虞アリト認メタルトキハ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

一、臨時戸口調査ニ際シ調査ヲ忌避シ又ハ其ノ進行ヲ阻害スルノ行爲アリタル者

二、臨時戸口調査ニ關シテ當該職員ノ尋問ニ答ヘス又ハ答フルニ實ヲ以テセサル者

三、人ヲ教唆シテ第一號又ハ第二號ノ行爲ヲ爲サシメタル者

第六條 第四條ノ命令ニ從ハサル者又ハ流言其ノ他ノ方法ヲ以テ臨時戸口調査ヲ妨ケムトスル者ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

且之ト同時ニ臨時臺灣戸口調査事務取扱規程ノ名ヲ以テ、二十一條ヨリ成ル所ノ施行細則ヲ發布シ、細カニ調査ノ實施ニ關スル規定ヲ設ケタリ。之ニ加ヘテ尙ホ調査樣式タル所帶票ヲ示シ、又「所帶票記入心得」「調査委員心得」「監督委員心得」ナルモノヲ制定セリ。今是等ノ規定ニ基キ下ニ聊カ調査ノ組織ヲ略說セン

(一)、調査ノ目的物

調査ノ目的物ハ現在人口ナリ。即チ明治三十八年十月一日ニ調査ノ場所ニ現在セル内地人及土人ヲ事實有ノ儘ノ状態ニ於テ調へ上ルナリ。但シ未タ新政ニ浴セサル蕃地ノ蕃人ハ其調査不能ナルヲ以テ之ヲ除キタリ。

(二) 調査ノ時期

調査ノ期日ハ十月一日ヲ選定セリ。其理由ヲ尋スレハ主トシテ下ノ如シ。即チ我本土ニ於ル調査期日ハ固リ何等未タ公示セラレタルモノナシト雖、我統計當局者ノ私案ニテハ十月一日ヲ以テ適當ト認め、略ホ之ニ豫定セルモノ、如シ。サレハ臺灣ニ於テモ特別ノ不便ナキ限リハ、亦此期日ヲ採用スルコト寧ロ當然ナリ。然ルニ臺灣ノ自然的及社會的ノ状態ハ此日ヲ以テ特ニ不便トセス。蓋シ臺灣ニハ南部北部共ニ各異ナレル一定ノ雨季アリ。其季節ハ調査ノ實行ニ便ナラサルニ、十月ハ何レニ在テモ雨季ニアラス。且恰モ既ニ酷暑季ヲ過キテ、漸ク冷季ニ入ラントスルノ際ナリ。是等ノ自然的状態ハ十月ノ調査ヲ以テ不利トセス、加フルニ社會的状態ノ點ニ於テモ概シテ農閑ノ時ニシテ、農業ニ關聯セル取引モ亦從テ頻繁ナラス。人民ヲ煩ハスコト少ナクシテ、然モ人民ノ常態ヲ知ルノ便アリ。是等ノ理由ハ即チ十月

一日ヲ以テ調査期日ト定メタル所以ナリ。而シテ將來我本土ニ於テ國勢調査ヲ行フノ時、即チ恐ラク同時ニ亦臺灣ニテモ調査ヲ行フノ時ニ在テハ、本土ト臺灣トハ調査ノ時期ヲ異ニセサルヘク、從テ兩者ノ統計ヲ利用スルニ當テ甚タ利アリ。吾人ハ之ヲカノ印度ニ於テ其特別ノ狀態カ止ムヲ得スシテ、本國ト相異レル調査期日ヲ選定セシメタルニ比シ、偶々有利ノ境遇ニ存シタルヲ喜ハサルヲ得サルナリ。

然シテ更ニ十月一日ニ於ル何時ノ事實ヲ調査スルヤト云フニ、コレ亦普通行ハル、所ニ從ヒ同日ノ午前零時ノ有様ヲ調査ス。即チ一時ノ現在者例ヘハ來訪者タルト常住者タルトヲ問ハス、苟モ其所帶ニ午前零時ニ現在セル者ハ一切其現在セル有様ニ於テ之ヲ申告セシム。但シ現在人口ノ外ニ尙ホ常住ノ人口ヲ算出スルニ便センカタメニ現在者ニアラサレトモ、常住者ト認ムヘキ一時ノ不在者ハ之ヲ附加シテ調査シタリ。

人口調査ハ元來人民家居ノ常態ヲ知ルヲ以テ目的トナスカ故ニ、亦歐洲普通ノ立法例ニ倣ヒ、戶口調査規則第四條ニ規定ヲ設ケ、人民ノ常態ヲ亂スヘキ事項例ヘハ祭典ノ如キハ調査期日ニ於テ成ルヘク之ヲ避ケシムルコト、セリ。

(三)、調査ノ範圍及事項

臺灣ノ臨時戸口調査ノ調査範圍ハ主トシテ普通ニ所謂人口調査ニ限ラレ、之ニ極メテ簡單ナル住家ノ調査ヲ加ヘタルニ過ス。コレカノ將來我本土ニ行ハルヘキ國勢調査カ其名稱ノ漠然タルヨリ動モスレハ不當ニ廣汎ノ範圍ニ互ルノ虞アルニ比シ、余ノ贊同ヲ表スル所ナリ。此點ニ就キテハ本年三月ノ國家學會紙上ニ掲ケタル論文ヲ參照セラルヘシ而シテ今其調査事項ヲ舉レハ重ナルモノ左ノ如シ。

第一、所帶内ニ於ル地位卽チ例ヘハ所帶主又ハ所帶主ノ父母、妻子、雇人、同居人、來客ト云フカ如シ

第二、男女ノ別

第三、出生ノ年月日 各人ノ年齢ヲ調査スルニ直チニ年齢何歳ト問ハスシテ、各人ノ出生年月日ヲ尋ヌルハ理論上最モ進歩シタル方法ナリ。然レトモ實際精確ニ自己ノ出生年月日ヲ知ラサル者少カラサル臺灣ノ土人ニ對シテ如此キ問ヲ發スルハ少シク不似合ノ感アリ。然レトモ後ニ述ルカ如ク今回ノ調査ノ基礎トシテ採用セラレタル戸口調査簿ニ於テ、既ニ各人ノ生年月日ニ確定セ

ラレアルカ故ニ、如此キ問ヲ設ケタルハ強テ答ムヘカラス。

第四、配偶的身分即チ未婚者、配偶者、鰥寡、離婚者ノ別

第五、本業ノ種類及ヒ其内ニ於ル地位

第六、副業ノ種類及ヒ其内ニ於ル地位

第七、不具ノ種類(聾、啞、盲、白痴及瘋癲ニ限ル)竝ニ其原因

第八、外國人ニ限リ其國籍

第九、種族即チ内地人、土人(福建人、廣東人、其他ノ漢人、熟蕃人)、生蕃人及外國人ノ別

第十、常用語竝ニ常用以外ノ語

第十一、讀ミ書キノ程度 此事項ハ普通ニハ人民教育ノ程度ヲ測ランカタメニ

設ケラル、モノナレトモ、臺灣ニ於テハ我邦ノ假名ヲ標準トシ、之ヲ讀ミ、書キ又ハ讀ミ且書クモノ、區別ニ依リテ尋問スルコト、ナシタルカ故ニ、假令漢學ニ長スルモノト雖日本ノ假名ヲ知ラサレハ讀ミ書キノ力ナキモノトナルナリ。サレハ此事項ハ第九ノ常用語ニ關スル事項ト相俟テ我文化ノ臺灣ニ於ル普及ノ程度ヲトスルノ用ヲナスヘク、未タ以テ一般ノ教育ノ程度ヲ測知ス

ルニ足ラサルナリ。

第十二、阿片煙吸食特許者ナルヤ否

第十三、現ニ又ハ過去ニ於テ纏足セルヤ否

第十四、内地人ニ限り其出生地、原籍、竝ニ渡臺ノ年

第十五、所帶主ニ限り其住家ノ有様卽チ持地持家、借地持家、借地借家又ハ持地借家ノ別ニ從テ記入スルコト

以上ノ調査事項中第九以下第十四マテノ六事項ハ臺灣特種ノ事情ニ促カサレテ設ケタルモノニシテ、其趣ハ亦カノ印度ニ在テ其本國ニ於ル普通ノ調査事項ニ加フルニ特別ノ事項ヲ以テシタルト全ク符節ヲ同フス

(四)、調査ノ様式

調査ノ原様式ハ所帶票ヲ用キタリ。然シテ外ニ尙ホ附帶ノ様式ニアリ。調査委員要計表及監督委員要計表卽チ是ナリ。調査委員要計表ハ調査委員カ其擔當調査區域ニ付キ所帶票ニ依リテ作製スル所ノモノニシテ、調査區域内ニ於ル住居數、所帶數及人口數竝ニ實地調査時間數、所帶票整理時間數ヲ記スヘキ簡單ノ表式ナリ。監

督委員要計表ハ監督委員又ハ監督補助委員カ各調査委員ノ差出シタル要計表及所帶票ヲ對照検査シ、其要計表ニ依リ調製スルモノニシテ、其監督區域内ニ於ル住居數、所帶數及人口數竝ニ検査時間數ヲ記入スル用紙ナリ。而シテ是等ノ用紙ハ豫メ此他ノ書類即チ所帶票記入心得調査委員心得、監督委員心得等ト共ニ調査期日前ニ夫レノ是等ノ委員ニ交付セラル、ナリ。

(五)、調査ノ機關

臨時戸口調査ノ機關トシテハ普通ノ行政系統ニ依ラサル特別ノ組織ヲ設ケタリ。即チ先ツ中央ノ機關トシテ特ニ臨時臺灣戸口調査部ナルモノヲ設ケ、部長及副部长各一名ヲ任命シ、其下ニ戸口調査評議員會及主事二名ヲ置き、是等ヲシテ調査全體ノ立案、指揮、監督及編整ノ事ニ當ラシメタリ

次ニ地方ノ機關トシテハ各廳(廳ハ臺灣ニ於ル最高地方行政團體タリ)ニ各一名ノ戸口調査委員長ヲ置き、廳長ヲ以テ之ニ充テ、全廳ノ戸口調査事務ヲ統轄セシム。各廳ノ内ニ多クノ監督區ヲ設ケ、各監督區ニ監督委員一名及監督補助委員數名ヲ置き、調査委員ノ指導監督ニ充ツ。又各監督區ノ下ニ多クノ調査區ヲ設ケ、各調査區

ニ各一名ノ調査委員ヲ置キ、之ヲシテ實地ノ調査ニ當ラシメタリ。而シテ監督委員及調査委員ニハ臺灣總督府所屬行政各官衙吏員、學校職員又ハ公醫ニシテ調査區内ノ事情ニ通曉シタル者ノ中ヨリ選拔シタル者ヲ以テ之ニ充テ、又監督補助委員ニハ警察官吏派出所及之ニ相當スル廳直轄、支廳直轄ノ巡查ノ中ヨリ選拔シタル者ヲ以テ之ニ充テ、共ニ戶口調査委員長ノ選任スル所ナリ

(六)、調査實行ノ方法

上記ノ樣式ヲ用キ、是等ノ機關ニ依リテ實行シタル調査ノ方法如何、カノ人民ヲシテ調査事項ニ付キ自ラ答申ヲ所帶票ニ記入セシムルノ方法ハ、到底之ヲ臺灣ニ行フコト能ハサルハ、恰モ印度ニ於ルト同シ。從テ自ラ他ノ方法ヲ探ラサルヲ得ス。抑モ臺灣ニ於テハ明治三十六年五月戶口調査規程ナルモノヲ發布シ、之ニ基キ同年以來下級ノ警察機關ヲシテ各戶ニ就キ現住者ノ身分、職業及異動ヲ調査セシメ、其結果ヲ收錄シテ戶口調查簿ナルモノヲ作製セリ。從テ各人ノ所帶内ニ於ル地位、體性、年齡、配偶の身分、職業、阿片吸食等ノコトハ之ニ依リテ知ルヲ得ヘシ。然ルニ元來警察の治政ノ下ニ統御セラル、臺灣ニ在テ、其警察機關カ隣保相祐ノ主義ニ依

リ、人民ノ間ニ成立スル保甲ノ制度ト相俟テ作製スル戸口調査簿ハ、人民ノ狀態ノ寫生トシテ甚タ信ヲ措クヘキニ似タリ。是ニ於テ乎、則チ臨時戸口調査ニ當リテモ戸口調査簿ヲ利用シ、之ヲ基トシテ調査ヲ實行スルコト、ナセリ。蓋シ事宜ニ適シタルノ處置ト謂フヘシ。下ニ尙ホ聊カ此調査方法ヲ説明セン。

先ツ各廳ノ戸口調査委員長ハ警察官吏派出所及之ニ相當スル廳直轄竝ニ支廳直轄區域内ニ約百戸ヲ標準トシテ若干ノ調査區ヲ設ク。但シ河川港灣ニ付テハ便宜調査區ヲ設クルコト、ス。各調査區ニハ調査委員ヲ置ク。又適宜若干ノ調査區ヲ聯合シテ、監督區ヲ設ケ、之ニ監督委員及監督補助委員ヲ置ク。然シテ調査委員ハ調査ノ當日即チ十月一日ニ於テ自ラ其擔當區域ニ關スル戸口調査簿ヲ携ヘ、之ニ照合シテ一々其區域内ノ各所帶ニ就キ、同日午前零時ニ於ケ有様ヲ調査シ、其結果戸口調査簿ノ誤謬又ハ異動ヲ發見シタルトキハ附箋紙ニ其事項ヲ記載シ、之ヲ該簿ノ相當欄内ニ貼付ス。此實地調査ハ十月一日ノ日出ヨリ開始シ、可成同日中ニ完了シ若シ完了シ難キトキハ遅クモ同月三日マテニ終ルヘキコト、ス。カクテ調査委員ニ於テ調査ヲ終リタルトキハ其結果ヲ一々所帶票ニ記入ス。更ニ之ヲ了シタル

トキハ、之ニ依リテ調査委員要計表ヲ製シ、實地調査完了後七日以内ニ之ヲ監督委員ニ差出スナリ。監督委員ハ是ニ於テ是等ノ書類ヲ檢査シ、後之ヲ一括シ、之ニ監督委員要計表ヲ添付シ、十月二十日マテニ戶口調査委員長ヲ經由シテ、之ヲ臨時臺灣戶口調査部ニ送付シ、コヽニ調査ハ一段落ヲ告ルナリ。

以上ハ則チ臺灣ノ臨時戶口調査ノ組織ノ大要ナリ。而シテ此大調査ノタメニ臺灣ノ當局者ハ數年來種々ノ準備的施設ヲ爲シ、即チ或ハ數回統計講習會ヲ催シ、或ハ明治三十七年八月桃園街ニ試驗調査ヲ試ミ、或ハ警察官司獄官練習所ノ教科々目ニ國勢調查法ヲ加ヘ、或ハ特ニ之カタメニ地方官ヲ召集シテ會議ヲ開キ、又ハ戶口調査簿ニ調査事項ヲ追加シテ臨時戶口調査ノ調査事項ニシテ從來該簿冊ニナキモノヲ増加シ、又ハ特ニ人民ニ諭告ヲ發シ、且周知ノ便ヲ計ランカタメニ之ヲ凡ソ一疊半大ノ漢譯ノ大印刷物ニ製シ、五千餘枚ヲ街庄社役場(我本土ノ市町村役場ニ當ル)其他人民ノ群集スル場所ニ揭示スル等、勉勵盡力殆ト至ラサルナシ。地方廳ニ於テモ亦各自種々ノ準備ニ努メ、即チ調査區監督區ヲ設ケ、其委員及通譯者ヲ選定シ、殊ニ調査期日ニ近ツクニ及ヒ大ニ戶口調査簿ヲ整理スル等、力ヲ合セテ調査

ノ成功ニ資シタリ。而シテ調査區ヲ設クルコト實ニ四千三百六十二、監督區ヲ置クコト七百三十二、又調査委員ノ數ハ四千三百六十四人ニ昇リ、其中ノ大多數ヲ占ルモノハ巡查ニシテ、其數二千四百七十六人ナリ調査委員ノ數ニ監督委員七百〇一人(中調査委員ヲ兼テタルモノ九十六人)監督補助委員一千三百三十九人(中調査委員ヲ兼ネタルモノ千二百四十九人)ト竝ニ調査委員付通譯數一千八百十一人ヲ合スレハ、本調査ノタメ人ヲ動カシタルコト凡ソ七千人ナリ。又調査ニ要シタル印刷物ノ數量ノ夥多ナルハ、例ヘハ所帶票ノ發送枚數七十九萬六千四百六十枚其重量二千五百八貫目餘ニ達シタルカ如キヲ以テ之ヲ察知スヘシ。

カクシテ當日調査ハ圓滑ニ行ハレ、人民ハ靜肅ニ調査ヲ受ケタリ。只一部分ノ人民間ニ一種ノ誤解ヲ生シ、原籍地ニ於テ調査ヲ受ケサレハ臺灣人ニアラスト認メラレンコトヲ恐レ、官憲又ハ保甲ノ說諭ニ服セズ、歸來シタルモノアリシカ、大局ニ惡影響ヲ生スルニ至ラサリシト云フ。カノ臨時戸口調査規則第五條ノ制裁ヲ受ケタルモノ全島中僅ニ二人ナルヲ以テ見レハ、亦調査ノ成功ヲ證スヘシ。但シ調査ハ豫定ノ如クニ十月一日中ニハ完了ヲ見ス、同日中ニ實査ヲ終リタルハ却テ少數ノ

調査區域ニ止マリシカ、同三日マテニハ全部ノ調査ヲ終レリ。只蕃薯寮廳ノ一部ニ蕃害發生シタルカタメ同廳ニ限り、漸ク二十五日ニ至リ結了ヲ告ケタルアルノミ。戸口調査ノ結果ヲ編整シテ之ヨリ各種ノ統計ヲ製出スルニハ、所謂中央集查ノ制度ニ據リ、全材料ヲ中央ノ臨時臺灣戸口調査部ニ集ムルコト、セリ。サレハ實地調査終了後、豫定通りノ手續ヲ經テ所帶票竝ニ委員ノ要計表ハ夫レ夫レ作製セラレ、其大部分ハ規定ノ期日ナル十月二十日マテニ、其他遅キモノモ十一月十一日マテニハ悉ク戸口調査部ニ提出セラレ、調査ノ原材料ハ中央機關ノ手中ニ集マレリ。是ニ於テ乎、則チ中央機關ハ此多大ノ材料ヲ一々檢査シ、其誤謬ヲ訂正セシメタリシカ、既ニ昨明治三十九年一月二十九日ヲ以テ此業ヲ終へ、更ニ多數ノ吏員ヲ督勵シ、特別ノ技術的手續ヲ用キテ、今ヤ大小各種ノ統計表ヲ作製スヘク、銳意之ニ從事シツ、アリトス。而シテ本調査ノタメニ抛ツ所ノ費用ハ、總計拾八萬五千八百四拾圓ニシテ、明治三十八年度ヨリ明治四十年度ニ亙リ三年間ノ繼續費トシテ支出セララル、ナリ。之ヲ今回ノ調査ノ結果トシテ現ハレタル臺灣ノ人口三百三萬九千七百五十一人ニ割當レハ一人ニ付キ六錢壹厘弱ナリ。コノ少ナカラサル費用ヲ投シテ

施行セラレタル調査ノ結果カ精細ナル統計出版物トナリテ吾人ノ前ニ現ルルハ蓋シ遠キニアラス。吾人ハ正ニ多大ノ希望ト興味トヲ以テ切ニ之ヲ迎ヘント欲ス。

印度ト臺灣トカ各其本國ト相異ナレル特種ノ狀態ノ下ニ生存スルノ故ヨリシテ、其人口調査ニ於テモ亦調査期日、調査事項、調査方法等ニ付キ特別ノ注意ヲ加ヘ、特別ノ規定ヲ要スルニ至ルノ趣ハ、如上ノ敘述ニ依テ明カナラン。然リ而シテ更ニ兩者カ調査ノ結果ニ於テ亦同シク種々ノ特色ヲ呈スヘキハ勿論ニシテ、之ヲ比較論究スルハ恐ラク一ノ興味アル研究タルヘシ。余ハ臺灣臨時戸口調査ノ出版物ノ公クニセラル、ニ及ヒ、他日稿ヲ改タメテ之ヲ論述センコトヲ期ス。

附記 本論文ノ臺灣戸口調査ニ關スル說述ハ、明治三十九年十一月二十一日乃至同二十四日ノ官報ニ分載セル臨時臺灣戸口調査顛末(臺灣戸口調査部ノ報告ニ基ケルモノ)ト、余カ昨冬臺灣出張ニ際シ、祝臺灣民政長官ノ與ヘラレタル便宜竝ニ水科戸口調査部主事及戸口調査部々員諸氏ノ説明及材料トニ負フ所多シコ、ニ明記シテ諸氏ノ厚意ヲ謝ス。